

リフレクションカード 2023年度前期

学科	助産別科
氏名	杉浦 絹子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
基礎助産学Ⅰ	1	前期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	回答者が受講生15名中1名のみであったため、評価は受講生全体のリアクションを反映していない。 本科目では、助産の基盤となる事柄に関する知識を教授するとともに、助産に関連する実際に起こっている出来事等の最新トピックスを提示し、ミニ討議の機会を多く設け、自分とは異なる意見や考え方を知るとともに自分の考えについて振り返る時間を設けた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された		達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	平均得点は97.9±2.5(最低93点、最高100点)、全員S評価であった。 授業内でのミニ討議は、ペア討議→グループ討議→全体討議の形で進めたが、その内容は、助産師を志す学生として充実したものであった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、助産の基盤となる必修科目である。助産の概念および助産に関連する理論、助産師の歴史、法的な位置づけなどの知識を教授するとともに、専門職としての責務を学び、助産師としての自覚を促すこと、さらには、倫理的課題に対する姿勢、医療チームや関連機関等との連携・調整のあり方について考察する内容とした。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	口頭およびリアクションペーパーにて質問・意見・感想をフィードバックしてもらい、質問については次の授業時に回答した。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は集中講義であり、授業評価の時期が授業終了後数週間経過してからであったことから回答者が受講生15名中1名のみであった。次年度は回収率が高まる方法を担当部署とともに検討する。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	助産別科
氏名	恒松 良祐

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
基礎助産学Ⅱ	1	前期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，自由記述の意見など	①助産別科は全員が資格取得を目指している。受講動機をみると「必須科目である」、「資格取得に必要である」と本科目は必須科目であるとともに資格取得に必要な科目である。専門職を目指す者として意欲・関心を持って講義・演習に臨む姿勢が求められる。また、本科目は理論領域であり実習や専門科目を支援する基礎科目である。 ②現在、ほとんどの病院やクリニックで妊婦健診（医師外来および助産師外来）の際、超音波検査を実施している。そのため超音波検査の技術演習（医師が担当）を取り入れ、より実践に近い授業の組み立てを行っている。 ③講義資料や内容の工夫などを行い、基礎的な病態生理や症例の実際を視覚的に理解できるように努めている。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は79.73（±8.69）であり、昨年の80.37（±8.63）とほぼ同じであった。標準レベルに達した学生は4名、理想的レベル（概ね80点以上）に達した学生は9名であった。「基礎助産学Ⅱ」は、男女のリプロダクションに関する形態・機能、疾患および治療についての講義内容であり、理解した内容を「説明ができる」ことを目標としており、基礎科目ではあるが、専門性のレベルは高いといえる。クラスの約半数の学生が理想的レベルに達しており、各学生が専門職を目指すものとして、意欲的に学習に取り組んだ結果だと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は助産の理論領域に位置する基礎科目であり、必須科目である。専門科目につながる学習の基盤であり、内容的には助産師として必要な知識である。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 本科目は助産の理論領域に位置する基礎科目であり、助産師として必要な知識・理解を有する科目であるため、ほぼ全員が真面目に講義や演習に取り組んでいた。また、成績においてもほとんどの学生が、標準レベルに達している。 以上のことから、内容的に妥当であるとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	短期間で集中的に行われる授業であり、学生が関心を持って意欲的に目標に向かって取り組めるよう、他教科との課題の調整や科目間の関連性を考慮した。成績においても標準レベルに達している状況をふまえ、授業の進め方は妥当であったと考える。ただ、他教科との課題の調整などを考慮しても、助産別科の授業は集中講義であるため、どうしても課題等が重なることがある。学生がより余裕をもって、授業の課題に取り組んだり、準備をしやすいように、事前に講義資料を配布するなどの工夫を行っていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は助産の実践領域の専門科目である。成績より、概ね標準レベルが達成できているといえる。短期間で集中的に行われる授業の中で、学生の努力がうかがえる。今後、学生が学習時間の確保ができるように引き続き、他教科と調整を図るとともに、基礎科目として持続的に学習に取り組めるよう支援していきたい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	助産別科
氏名	天本 理恵

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
母子栄養学	1	前期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①母子栄養学は、周産期の健康教育において重要視される妊婦、授乳婦の食事管理、栄養管理について学ぶ必修科目の1つである。よって学生全員100%が受講動機に「必修科目である」を挙げている。今年度は「関心のある内容である」が14.3%と昨年度の27%に比較すると下がっている。受講前は関心は低いですが、本科目の講義を受講した結果、助産別科生が周産期における食事の重要性を理解し、関心をもち、将来的に活用することが出来る授業内容にするよう、努力していく必要がある。 ②今年度も対面での講義であった。栄養学科同様、スライド資料を作成し配付した。資料にはポイントを書き写すことのできるスペース等も設けた。 ③学修準備性に関しては、約43%の学生が予習・復習をやってないと回答している。今年度は復習の小テストを導入したが、講義の復習はよく出来ていた。また助産別科の学生にとっては、専門の科目ではないので予習復習課題を出すことはしなかった。但し、助産別科で学ぶ間（修了後も）に母子の栄養に関する質問があればいつでも受け付けることにしている、今後もそのようにしていく。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	DP1(知識理解)、DP2(思考判断)に関しては、定期試験結果から評価した。試験結果は16名の受講生中、A(秀)が25%、B(優)が63%と多く、C(良)6%であり、秀および優の割合がとても多かった、昨年度は優と良が殆どを占めていたため、今年度の学生の理解度は上昇したものとする。母子栄養学の理想的レベルの学生(助産別科では概ね80点以上を理想的レベルとみなす)は、AおよびB評価の学生であり、88%に及んだ。受講生全員が標準的レベルには至っており、うち理想的レベルが9割に近いことは、結果として本科目受講に対する意欲の高さはうかがえた。また学生による授業評価においては、知識理解や思考判断が高いだけに限らず、本科目の該当DPに設定していない意欲関心や技能表現に関する自己評価が高い。講義への関心の高さは、試験結果や、自己評価で判断することが出来たが、学習量の評価では、約43%の学生が予習を一度もしていなかった。今後は助産別科の他教科との関連を含めて予習・復習を促すことが出来るよう、シラバスの活用も含め、検討していく。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、助産理論領域の基礎科目の一つであり、必修科目である。このことから、受講動機の「必修科目である」が100%なのは、当然の回答である。 また、本科目に対する学習到達度や試験結果から、必修教科ではあるものの関心の高さや達成度の高さは伺えたため、DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性に関しては、妥当であったと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学習量の評価では、43%の学生が予習を一度もしていないと回答した。理由としては、「他の科目や実習課題で忙しかった。」等が自由意見にあがっており、助産学を専門とする学生たちに、栄養学課題の負担はあまりかけたくないという担当の気持ちもあるため、他の周産期ケア科目の中での課題の組み込みも検討する必要があると考えている（例：長時間の陣痛、分娩時の栄養補給等）。この授業を履修する際にシラバス記載を参考にした学生は86%と高かった。今後も講義初回のオリエンテーション時における、シラバスの説明、今後の授業の進め方、自己学習の仕方等を丁寧に実施していく必要がある。 予習復習等自己学習に関しては、まずは、少時間でもいいので、予習・復習をする習慣をつけてもらえるよう、シラバス記載の予習・復習項目を常に意識するよう学生に促す。また、学生の意見の中に「講義内容が盛りだくさん」という意見があった、この意見は、毎年頂いている。講義回数が8回という関係上、周産期に限らず、幼児期、思春期および更年期の栄養学の知識も教授していかなければならないため、講義回数増も含め、助産別科教員と検討して対応していく予定である。また、「指導案を作成する時に活用できた」との意見も頂き、他分野の学生でも楽しく聞けて、今後の仕事に活かすことが出来るような講義を続けたいと考えている。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、助産理論領域の基礎科目の一つであり、必修科目である。また現代においては、助産師による妊産婦に対する食や栄養に関する知識の教授の必要性は高い。学生の到達度評価と試験結果から2つのDPは達成できていると考える。必修科目ながらも、今後も助産別科生が本科目の内容に興味をもち、社会で活用できる栄養の知識をつけることが出来るように、学生の反応をみつつ、常に意見を取り入れ、授業改善を行っていく。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	助産別科
氏名	前田 幸

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
助産診断・ケア学Ⅰ(妊娠期)	1	前期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①助産診断・ケア学については演習科目であり、学生が机上での学習をふまえ、助産ケアに必要な援助技術を習得することを意図した講義を展開している。受講動機をみると「必須科目である」100.0%と本科目は必須科目であるとともに資格取得に必要な科目である。専門職を目指す者として意欲関心を持って講義・演習に臨む姿勢が求められる。 ②本科目では、母性看護学の知識をベースに助産の専門知識が積み重ねられるため、既に持っている学生の知識を整理しながら、主体的に学ぶことができるように工夫した。学生自身が自ら考え、意欲関心が得られるように、課題を提示して、個人ワークやグループワーク、発表、ディスカッションを取り入れるなどの工夫をした。 ③演習に関しては、演習内容を事前に提示し、自己学習を行った上で臨むようにした。実習において必須である妊婦健診や保健指導に伴う技術に関しては、より具体的にイメージができるよう模擬妊婦体験を行うとともに、基本技術の習得、妊婦と助産師役、第三者の視点も含め助産師外来のロールプレイを行い、知識理解を思考判断や技能表現に結び付けられるような内容を組み立て取り組んだ。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	やや達成された	やや達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は71.99（±5.47）であり、成績のばらつきは大きくなかった。1名の学生が理想的レベル（概ね80%以上）に達しており、8名の学生が標準レベルに達していた。再試験対象者いなかった。DPの目的別にみると、知識理解に関しては69%、思考判断に関しては71%、関心意欲に関しては80%、態度に関しては77%、技能表現に関しては76%の標準レベルの達成度であり、真面目に演習に取り組むことができていた。 学生による授業評価の到達度自己評価においては、10項目の平均値3.8～4.5（点）、中央値は4.0～4.5（点）であり、概ね肯定的な評価であった。「自分なりの目標を達成した」という項目に置いての平均値は4.0点であり、学生自身は本科目において自分なりの目標を概ね達成できていると考える。今後も学生が、知識理解を身に付け、思考判断を行い、演習に取り組めるよう関わっていく必要がある。全体的な評価として、学生は意欲的に学習に取り組み目標を達成できたのではないかと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「助産実践領域」のなかの「専門科目」であるが、より専門的で高度な知識と思考判断、態度、技術を身につけることが必要とされる。学習到達度の自己評価の項目では、平均値3.8～4.5（点）であり、一定の成績をおさめていることから、内容的には妥当であると考えている。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 受講動機は、「必須科目である」が100.0%と、意欲的に講義や演習に取り組んでいた。またすべてのDPにおいて、ほぼ標準レベルに達していた。 以上から、内容は妥当であると考えている。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	短期間で集中的に行われる授業であり、学生が関心を持って意欲的に目標に向かって取り組めるよう、他教科との課題の調整や科目間の関連性を考慮して講義を進めていった。「授業の質の評価」では、5つの項目すべてにおいて、平均値4.2～4.3（点）、中央値4.0～4.5（点）の評価であった。成績においても、標準レベルに達している状況をふまえ、授業の進め方は妥当であったと考える。ただ、昨年より成績の平均値が低い結果となっている。看護学生時代をコロナ禍で過ごした学生が意欲的に目標に向かって取り組めるよう課題の出し方を工夫するとともに、知識理解をしっかりとおさえたいうえで、思考判断力を身につけることができるような授業の組み立てをおこなっていく必要があると考える。また、学生個々の理解度なども確認したうえで、助産ケアに必要な援助技術を習得できるように工夫していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は助産の実践領域の中核となる専門科目である。授業評価アンケートより、到達度自己評価は、10項目の平均値3.8～4.5（点）、中央値4.0～4.5（点）より、概ね標準レベルが達成できているといえる。成績においても教育目標は達成できている。短期間で集中的に行われる授業の中で、さらに専門職を目指すものとして、総合的な力が向上していけるように学生の意見も取り入れながら、課題や講義・演習等の内容を検討していきたい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	助産別科
氏名	古賀 玉緒

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
助産診断・ケア学Ⅲ(産褥期)	1	前期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	講義で得た知識や思考をいかして対象に適切な技術の提供が行える能力を身に着けることを意図して学習計画を立案し臨んだ。 思考面については、まずは産褥期の生理・褥婦の変化・産褥経過・支援方法について教科書や専門雑誌などを用いて解説し、さらに事例を用いて褥婦の心身の 生理的变化をふまえた必要な支援について学生間で意見交換・共有の時間を設け、知識や根拠の確認、支援の方向性について理解を促すことや、技術面については、授業で用いた事例に対して各自が挙げた支援を実践ができるよう、技術練習の時間を設けた。練習の中では、自身の技術面を客観的に評価するために、動画を撮影し振り返りの時間を設けて、最終的には、教員による技術チェックを行い達成度を評価することとした。 課題については、他科目の課題との関連性や提出時期などを考慮し、学生の負担とならないよう心がけた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は86点であり、再試対象者は0名であった。全員が標準レベルに達した。 DP別にみると、知識理解に関しては91%、思考判断に関して88%、関心意欲に関しては100%、態度に関しては94%、技能表現に関して91%であった。 *学生の到達度自己評価や授業の質評価の結果も回答者全員が「そう思う」と答えており、集中講義で時間の余裕は決して多くない中で課題や自発的学習にも取り組んだことが、目標達成につながったと考える。また、コロナ禍のため基礎教育において臨地実習の経験が少ないまま、助産学実習に臨むことになっていったことも、学生の取り組み姿勢に関連していた。					

5. D P, C P, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
D P, C P, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は「助産の実践領域」のなかの「専門科目」であるが、より専門的で高度な知識と技術を身につけることが必要とされることから、知識理解・思考判断のほか技術表現・態度も含めた講義内容は必要である。 *受講動機は「必須科目である」100%、全員がまじめに講義や演習に意欲的に取り組んでおり、到達度自己評価では平均点以上であった。また、D Pにおいてもほぼ標準レベルに達していたことから、内容的には妥当性があったと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	上記、授業準備にそって進めた。授業のなかで意見交換や視聴覚教材も活用しイメージ化を図ることや、技術練習の時間を増やし、動画による自己の振り返りをとりいれたことは、学生の高い達成度につながったと考える。 なお、課題については、範囲や量を他教科の課題との関連をふまえてできるだけ学生の負担とならないよう配慮したが、他科目の課題と重なることもあったため、時期や内容を再検討したい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	全員が目標に達することができていた。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	助産別科
氏名	杉浦 絹子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
人間関係とコミュニケーション	1	前期	選択	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、助産実践の基盤となる人とのコミュニケーションの基礎的知識を修得するとともに、自らのコミュニケーションの特徴を振り返ること、助産実習において母子や臨地の多様な人々とより円滑な人間関係を築くことができる態度を培うことである。選択科目であるが、必修科目との認識をしている学生が多かった。履修指導において、推奨科目としているものの必修科目ではないことを明確に伝える必要がある。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	「授業をとおして理解したコミュニケーションのあり方についての自身の考え」をテーマとして課したレポートの評価平均点は96.0±6.0（最低80点、最高100点）と高かった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	受講生15人中6人（40%）のみの回答であり、残り9人（60%）が未入力であるため、結果の解釈には限界があることを念頭に置く必要がある。 本科目の目的とするコミュニケーション力の向上について、評価項目「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」が4.0と、学生の自己評価においても高く、回答した4割の受講生にとって、普遍的な人間関係やコミュニケーションに関する内容は妥当であることが窺われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	受講生15人中6人（40%）のみの回答であり、残り9人（60%）が未入力であるため、結果の解釈には限界があることを念頭に置く必要がある。 回答した4割の受講生の回答において、専門分野に関連した有用性を問う項目「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」3.8、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確な判断する力を得ることができた」3.7、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」3.7、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術をみにつけることができた」3.7と4.0に届かない。外部講師による交流分析の演習を実施したが、次年度は助産の臨床場面でのシミュレーション演習を取り入れる等、助産実践に直結する内容で構成することとする。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	上記を踏まえ、次年度は今日の助産実践に活用できるコミュニケーションに関する知識・技術にフォーカスした演習を組み込むこととする。